

ナノマテリアルに関する調査報告

2008年6月10日

日本化粧品工業連合会

安全性部会

1. ナノマテリアルの安全対策に関する検討会（第3回：5月2日）

<第3回の討議>

下記のテーマで質疑応答が行われた。

(1) ナノマテリアルの健康影響について

- ① ナノマテリアルのヒト健康影響の評価手法の開発のための有害性評価および体内動態評価に関する基盤研究 [国衛研 広瀬明彦室長]
- ② ナノ粒子の発がん性評価の現状 [名市大 津田洋幸教授]
- ③ NEDOプロジェクト「ナノ粒子特性評価手法の研究開発」の概要紹介 [産総研 蒲生昌志]
- ④ ナノマテリアルの健康影響に関する文献調査について [東レリサーチセンター]

(2) その他

<状況>

①および②については、参考人として招聘された演者より、厚生労働科学研究によって行われているナノマテリアル（二酸化チタンおよび多層ナノカーボンチューブ）を用いた動物試験の実施状況について報告が行われた。詳細については、下記の厚生労働省の審議会、研究会等の議事録等が掲載されているURLを参照。

<http://www.mhlw.go.jp/shingi/2008/05/s0502-3.html>

<今後>

次回以降は、医薬品食品局と労働基準局が別々に検討会を開催する。

なお、厚生労働省医薬品食品局と同労働基準局は「①ナノマテリアルの安全性の評価手法やヒト健康への影響について」および「②今後の安全対策のあり方について」の合同会議（3回）を経て、各検討会の会議（4回目以降）を実施し、本年秋から初冬にかけて報告書を取りまとめる。

2. ヒトに対する有害性が明らかでない化学物質に対する労働者ばく露の予防的対策に関する検討会

(5月30日)

上記検討会の継続として、厚生労働省労働基準局主催により開催された。

ナノマテリアルの製造、研究現場における労働者曝露を中心に、下記の内容で討議された。

- (1) ナノマテリアル取扱いに関する労働衛生の現状と対策について－アンケート結果から－
- (2) 通達への対応について
- (3) 検討課題について
- (4) その他

<状況>

(1)では、ナノテクノロジービジネス協議会（NBCI）関連企業におけるナノマテリアルの取り

扱い状況について報告があった。また、局所排気装置やマスクの使用による労働安全確保の可能性について討議された。

3. 国外の状況等

1) 米国EPA「ナノ材料スチュワードシップ・プログラム」の状況（1月28日）

EPAが本年1月28日から行っているナノ材料スチュワードシップ・プログラム（NMSP）について、データ収集に強制力を持たせるための方針を示している。

7月28日までにデータ提出（危険有害性、曝露、使用）を企業に求めているが、1社（Dupontか？）が情報を提供し、2社（BASFとDOWか？）を含む大手化学会社が基礎プログラムへの参加に合意している。

2) International Investigative Dermatology(IID) 2008

下記の報告が行われた。

・演題No. 1245 ロチェスター大学

UVを照射した皮膚に20-30nmの量子ドットを塗布したところ、それが顆粒層から検出された。

・サテライトミーティング 鳥取大・山元先生

皮膚の電顕観察で経皮投与したナノ粒子は角層上層から検出された。

4. 今後の動向

1) 第35回日本トキシコロジー学界学術年会（国立リハビリテーション記念青少年総合センター、6月26日～28日）

①シンポジウム「先端物質の安全性評価に対応するための連携」において下記の発表がある。

・ナノマテリアルの安全対策について

厚生労働省化学物質安全対策室担当官

②シンポジウム「ナノマテリアルの評価手法に関する研究の進展」において下記の発表がある。

・発がんプロモーション試験系について

名市大院医 津田 洋幸

・体内動態解析法と経皮曝露について

国立衛研 徳永 祐司

以上